

2023年3月期 第2四半期決算説明資料

2022年11月2日

目次

1. 決算サマリー	P. 3
2. 外部環境	P. 4
3. 2023年3月期 第2四半期決算	P. 6
4. 2023年3月期 業績予想	P. 16
5. 中期戦略の実現に向けて	P. 24
6. 株主還元	P. 27
7. 参考資料	P. 28

決算サマリー

◇ 2023年3月期第2四半期 業績

- 売上高 2,662億円、営業利益 260億円、EBITDA 403億円
- 22年5月に公表した計画を上回る収益
- 自動車減産や電子デバイス需要の低下、原燃料・物流コスト上昇の影響を受けたものの、販売価格の是正、コストダウン、為替の影響などにより、収益は計画を上回った

◇ 2023年3月期 業績予想

- 売上高 5,790億円、営業利益 540億円、EBITDA 860億円
- 自動車や電子デバイスの市場環境は上期に引き続き予断を許さない状況が継続することが想定されるが、マテリアルでの拡販や積極的な販売価格の是正、為替の影響などにより、22年5月に発表した予想値を上方修正。売上高は過去最高を更新する計画

◇ 株主還元

- 中間配当 18円/株（当初予想より変更なし）
- 期末配当予想 20円/株（当初予想より2円増配。通期配当予想 38円/株）
- 100億円、1,200万株の自己株式取得を決定（取得期間：2022年11月～2023年3月）


市場動向

セグメント	主要製品	主要市場	2023年3月期上期の状況	2023年3月期下期の見通し
メディカル・ヘルスケア	化粧品原料 健康食品原料	コスメ ヘルスケア	コスメの国内市場は期初の想定よりも緩やかであるものの回復基調が継続。中国市場はロックダウンの影響により低調に推移 健康食品の国内市場は堅調に推移	コスメの国内市場は期初計画前提に比べて遅れ気味であるものの、引き続き緩やかな回復傾向を見込む。中国市場はダブルイレブンなどにより需要が回復する見通し 健康食品の国内市場は堅調に推移する見通し
	キラルカラム	ライフサイエンス	キラルカラム・充填剤は、中国、インドなど海外需要が堅調に推移	引き続き中国・インドの成長によりキラルカラム需要は好調に推移する見通し
スマート	TAC (※) 機能フィルム レジスト材料 電子材料溶剤	電子デバイス 半導体	液晶パネルは、前年度のコロナ禍からの需要回復に伴う増産が一巡。生産調整による需要低下幅は期初計画前提よりも大きい 半導体市場は成長の鈍化がみられるものの、堅調に推移	液晶パネル在庫は年度末にかけて適正化する見通し。液晶パネル需要は期初計画前提を下回り、通期でマイナス成長を見込む 半導体市場は成長の鈍化がみられるものの、引き続き堅調に推移する見通し
セイフティ	エアバッグ用 インフレーター	自動車	自動車生産台数は第2四半期に中国ロックダウンからの回復が見られたものの、期初計画前提を下回る水準で推移	上期の減産からの巻き返し生産を見込むも、通期の生産台数は期初計画前提を下回る見通し

※TAC (Tri-acetyl cellulose) : 液晶表示フィルム向け酢酸セルロース


市場動向

セグメント	主要製品	主要市場	2023年3月期上期の状況	2023年3月期下期の見通し
マテリアル	アセチル (酢酸、 酢酸誘導体、 アセテート・ トウ)	樹脂・インク 用原料 塗料用溶剤	酢酸の主用途であるPTAの需要は2Q以降に低下がみられた。酢酸市況は供給面の回復により低下傾向で推移 酢酸エチルは、食品包装向けインキの需要は好調を維持するも、液晶用途の需要が低下。価格は酢酸市況低下の影響を受ける	酢酸の主用途であるPTAの需要は引き続き低下傾向を見込む。酢酸市況に大きな変動は想定しておらず軟調に推移する見通し 酢酸エチルの需要動向についても上期の傾向が継続すると見込む
		繊維 フィルター	全世界のたばこ生産本数は前年度並み。加熱式たばこ用の需要増からアセテート・トウ需要は堅調に推移	上期の傾向が継続する見通し
	ケミカル (エポキシ樹脂、 カプロラクトン 誘導体、 その他化学品)	電材・ コーティング 用原料	カプロラクトン誘導体はポリウレタン用途を中心に需要好調を維持。エポキシ化合物は主用途の一つである液晶ディスプレイ用途の需要が減少。一方、車載用電子基材向け用途の需要は成長鈍化がみられるもののOLED封止剤やFRP向けシランカップリング剤は堅調に推移	カプロラクトン誘導体、エポキシ化合物ともに、上期の傾向が継続する見通し
エンジニアリング プラスチック	POM PBT PPS	自動車部品	中国ロックダウンや半導体不足などによる自動車減産に加え、部品メーカーによる在庫圧縮の影響により需要は低調に推移	自動車の巻き返し生産を見込むも、期初計画で想定していた需要予測を下回る見通し
		電機・電子 ・精密機器	スマートフォンやパソコンなどの電子デバイス、家電の生産は中国ロックダウンおよび不安定な社会情勢による買い控えを背景とする需要の低下を受けて減少	スマートフォンやパソコンなどの電子デバイス、家電の生産は、上期に引き続き個人消費の低下により低調に推移する見通し
	LCP	電子デバイス	スマートフォンの生産台数は中国ロックダウンおよび不安定な社会情勢による買い控えを背景とする需要の低下を受けて減少	スマートフォンなどの電子デバイスの需要は、上期に引き続き個人消費の低下により低調に推移する見通し

2023年3月期 第2四半期業績

(単位：億円)

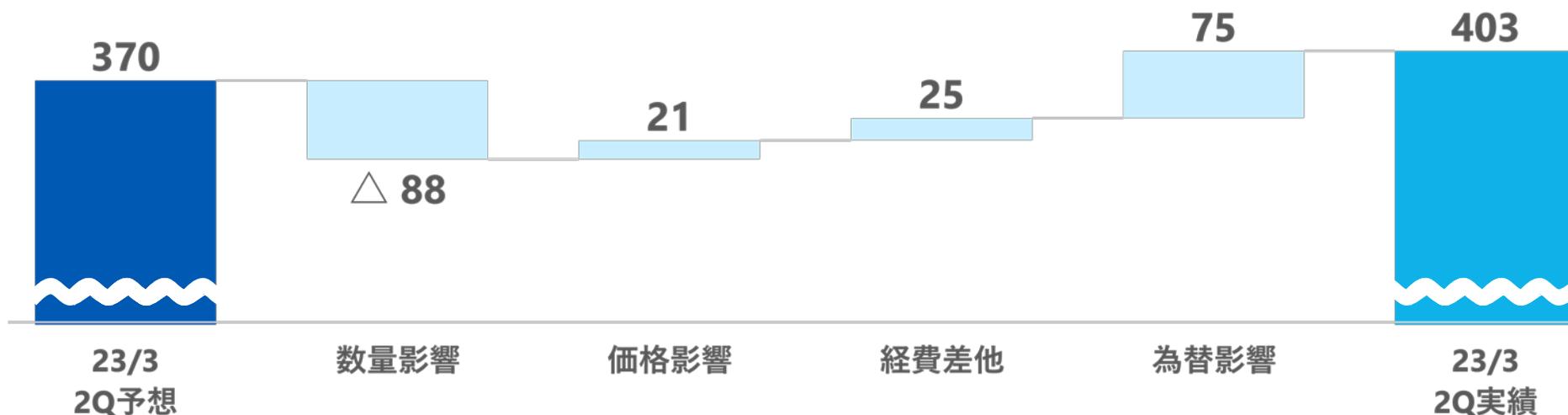
	2022/3 2Q実績	2023/3 2Q予想	2023/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	2,248	2,660	2,662	+414	+18.4%	+2	+0.1%
営業利益	273	230	260	△12	△4.5%	+30	+13.2%
経常利益	298	240	302	+4	+1.4%	+62	+26.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	220	185	222	+2	+0.7%	+37	+20.1%
為替レート USD/JPY	110	115	134				
EBITDA	406	370	403				

<対前年同期>

- 半導体不足などによる自動車減産や電子デバイス需要低下の影響を受けたものの、全社を挙げて販売価格是正に取り組んだことや、為替の影響などにより増収
- 販売価格是正やコストダウンに取り組んだものの、販売数量の減少や原燃料・物流コスト上昇の影響を受け、営業利益は減益。経常利益は為替差益により増益
- 特別損失には、セイフティの韓国拠点解散に伴う事業整理損を計上

2023年3月期 第2四半期業績 EBITDA増減分析（対 予想）

（単位：億円）



- 中国ロックダウンや半導体不足などによる自動車減産、電子デバイスの需要低下の影響により、スマート、セイフティ、エンジニアリングプラスチックを中心に販売数量が減少し、数量影響はマイナス
- 販売価格是正に積極的に取り組み、価格影響はプラスを維持。酢酸市況が想定よりも若干上振れで推移したことも寄与
- 為替レート (USD/JPY) 前提 予想：115円 ⇒ 上期実績：134円
- 物流コスト上昇の影響を受けるも、徹底したコストダウンや在庫影響などにより、経費差他はプラス

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

売上高	2022/3 2Q実績	2023/3 2Q予想	2023/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	96	115	109	+13	+13.0%	△ 6	△5.3%
スマート	154	190	162	+7	+4.7%	△ 28	△14.9%
セイフティ	319	420	397	+78	+24.6%	△ 23	△5.4%
マテリアル	580	665	724	+143	+24.7%	+59	+8.8%
エンジニアリング プラスチック	1,044	1,230	1,236	+192	+18.4%	+6	+0.5%
その他事業	54	40	35	△ 19	△34.9%	△ 5	△12.1%
合 計	2,248	2,660	2,662	+414	+18.4%	+2	+0.1%

営業利益	2022/3 2Q実績	2023/3 2Q予想	2023/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	14	15	11	△ 3	△20.8%	△ 4	△26.3%
スマート	26	18	4	△ 22	△85.5%	△ 14	△79.3%
セイフティ	11	23	△ 4	△ 14	-	△ 27	-
マテリアル	86	58	103	+17	+20.2%	+45	+78.1%
エンジニアリング プラスチック	132	113	145	+13	+10.0%	+32	+28.0%
その他事業	5	3	1	△ 3	△74.4%	△ 2	△60.7%
合 計	273	230	260	△ 12	△4.5%	+30	+13.2%

セグメント別 売上高・営業利益（対前年同期 増減・要因分析）

（単位：億円）

売上高	2022/3 2Q実績	2023/3 2Q実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	96	109	+13	+13.0%	△ 3	+15	+13
スマート	154	162	+7	+4.7%	△ 5	+12	+6
セイフティ	319	397	+78	+24.6%	+43	+35	+35
マテリアル	580	724	+143	+24.7%	△ 11	+154	+99
エンジニアリング プラスチック	1,044	1,236	+192	+18.4%	△ 43	+234	+133
その他事業	54	35	△ 19	△34.9%	△ 19	-	-
合計	2,248	2,662	+414	+18.4%	△ 36	+451	+286

営業利益	2022/3 2Q実績	2023/3 2Q実績	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	その他	営業利益の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	14	11	△ 3	△20.8%	+1	+4	△ 7	+6
スマート	26	4	△ 22	△85.5%	△ 4	△ 12	△ 6	△ 0
セイフティ	11	△ 4	△ 14	-	+15	△ 1	△ 29	+4
マテリアル	86	103	+17	+20.2%	+16	+0	+1	+42
エンジニアリング プラスチック	132	145	+13	+10.0%	△ 9	+78	△ 55	+41
その他事業	5	1	△ 3	△74.4%	△ 3	-	-	-
合計	273	260	△ 12	△4.5%	+14	+69	△ 96	+92

セグメント別営業利益（対 前年同期 増減・要因分析）

		営業利益	営業利益の増減要因
メディカル・ヘルスケア	数量影響	+1	+ 操業度増加（22年8月 1,3-BG（化粧品原料）新プラント稼働）
	価格影響	+4	+ 為替影響
	その他	△7	△ 減価償却費など経費増加
スマート	数量影響	△4	△ 光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）の販売数量減少
	価格影響	△12	△ 原材料価格上昇
	その他	△6	△ 経費増加
セイフティ	数量影響	+15	+ 販売数量増加、操業度増加
	価格影響	△1	△ 原材料価格上昇
	その他	△29	△ 経費増加
マテリアル	数量影響	+16	+ アセテート・トウなどの販売数量増加
	価格影響	+0	+ 原材料価格上昇の影響はあるも為替影響がカバー
	その他	+1	+ 在庫影響
エンジニアリング プラスチック	数量影響	△9	△ 販売数量減少
	価格影響	+78	+ コスト上昇に伴う価格是正、為替影響
	その他	△55	△ 直接販売費などの費用増加、在庫影響

セグメント別情報（2023年3月期（4月～9月）の状況）

＜対前年同期＞

メディカル・ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> 1,3-BGなどの化粧品原料は、中国でのロックダウンの影響などにより販売数量が減少し、減収 キラル関連製品は、キラルカラム・充填剤の海外市場向けの販売が好調に推移したことやインドの分析サービス、遺伝子解析関連製品販売の伸長、為替の影響などにより、増収
スマート	<ul style="list-style-type: none"> 光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）は、パネルメーカーの稼働調整の影響により販売数量が減少し、減収 機能フィルムはテレビ向け高性能ディスプレイ用途の成長や車載ディスプレイ用途の拡販により、増収 電子材料向け溶剤は、液晶パネル市場での稼働調整の影響を受けたものの、半導体用途での拡販や、原燃料コスト上昇に伴う積極的な販売価格の改定に取り組んだことにより、増収 フォトレジスト材料も液晶パネル材料用途での販売数量が減少したものの、半導体用途の拡販により、増収
セイフティ	<ul style="list-style-type: none"> インフレータは、中国ロックダウンや半導体不足などの影響を受けたものの、自動車生産が徐々に回復し販売数量が増加したことや為替の影響などにより、増収
マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> 酢酸は市況が供給面の回復により低下し、減収 アセテート・トウは前年同期の減収要因であった会計基準変更の影響が無くなったことに加え、加熱式たばこ向けの需要増加などにより販売数量が増加したことや為替の影響により、増収 カプロラクトン誘導体はポリウレタン向けの拡販や原燃料コスト上昇に伴う販売価格是正に積極的に取り組んだことなどにより、増収。また、エポキシ化合物は半導体用途やFRP向けの拡販、原燃料コスト上昇に伴う販売価格是正に積極的に取り組んだことにより、増収
エンジニアリングプラスチック	<ul style="list-style-type: none"> エンジニアリングプラスチックは、中国でのロックダウンや日系自動車メーカーの減産による部品メーカーの在庫圧縮、電子デバイスの需要低下の影響などにより、販売数量は減少したものの、原燃料・物流コスト上昇に伴う価格是正に積極的に取り組んだことや為替の影響により、増収

セグメント別情報（2023年3月期（4月～9月）の状況）

<対予想>

メディカル・ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> 1,3-BGなどの化粧品原料は、原燃料価格上昇に伴う価格是正に取り組むも、中国でのロックダウンの影響による需要低下により販売数量が想定を下回り、売上高は計画より減少。 キラル関連製品は、キラルカラム・充填剤の海外市場向け販売が好調に推移したことや遺伝子解析関連製品の成長による販売数量の増加、為替の影響などにより売上高は計画を上回った
スマート	<ul style="list-style-type: none"> 光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）は、パネルメーカーの稼働調整の影響が想定を上回り、販売数量は対計画で減少し、売上高も計画より減少 機能フィルムは、車載ディスプレイ用途が堅調に推移し、計画より拡大したものの、テレビ向け高性能ディスプレイ用途などが顧客の在庫調整の影響を受けたため、売上高は計画を若干下回った 電子材料向け溶剤は、原燃料コスト上昇に伴う販売価格の改定に積極的に取り組んだものの、液晶パネル材料用途の販売が計画を下回ったことにより売上高は計画を若干下回った フォトレジスト材料も同じく液晶パネル材料用途の販売数量が計画を下回ったものの、半導体用途が堅調に推移したことにより、売上高はほぼ計画並み
セイフティ	<ul style="list-style-type: none"> インフレータは中国でのロックダウンや半導体不足による自動車減産の影響などにより販売数量が想定を下回り、売上高は計画より減少
マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> 酢酸は市況が想定を若干上回る水準で推移したことにより、売上高は計画より増加 アセテート・トウは加熱式たばこ向けの需要増加や為替の影響により売上高が計画より増加 カプロラクトン誘導体はポリウレタン向けが堅調だったことや原燃料コスト上昇に伴う販売価格是正に取り込んだことにより、売上高は計画より増加。脂環式エポキシは液晶ディスプレイ用途の需要低下の影響を受けるも、原燃料コスト上昇に伴う販売価格是正に取り組んだことにより、売上高は計画並み
エンジニアリングプラスチック	<ul style="list-style-type: none"> エンジニアリングプラスチックは、中国でのロックダウンや日系自動車メーカーの減産による部品メーカーの在庫圧縮、電子デバイスの需要低下の影響などにより、販売数量は想定を下回ったものの、原燃料コスト上昇に伴う販売価格是正や為替の影響などにより売上高は計画を上回った

連結貸借対照表

(単位：億円)

		2022年 3月末	2022年 9月末	増減
流動資産		3,602	3,977	+374
	現預金及び有価証券	905	874	△ 32
	受取手形及び売掛金	1,026	1,060	+35
	棚卸資産	1,420	1,769	+349
	その他	252	273	+22
固定資産		3,386	3,486	+100
	有形固定資産	2,298	2,453	+154
	無形固定資産	101	107	+6
	投資その他資産	987	926	△ 60
資産合計		6,988	7,462	+474
負債		4,193	4,349	+156
	有利子負債	2,836	2,928	+93
	その他	1,357	1,420	+63
純資産		2,795	3,114	+318
負債純資産 合計		6,988	7,462	+474

- 総資産増加額474億円のうち、349億円が為替影響
- 棚卸資産は主に以下の要因により増加
 - 為替、原燃料価格上昇の影響による増加
 - 第3四半期の定期修繕やポリプラスチックス中国拠点移転計画に伴う在庫積み増しを実施
- 有形固定資産の増加のうち、為替影響は72億円。主な新規取得案件は中国におけるPOM製造能力増強投資
- 運転資金増加に対応するため、短期借入を実施

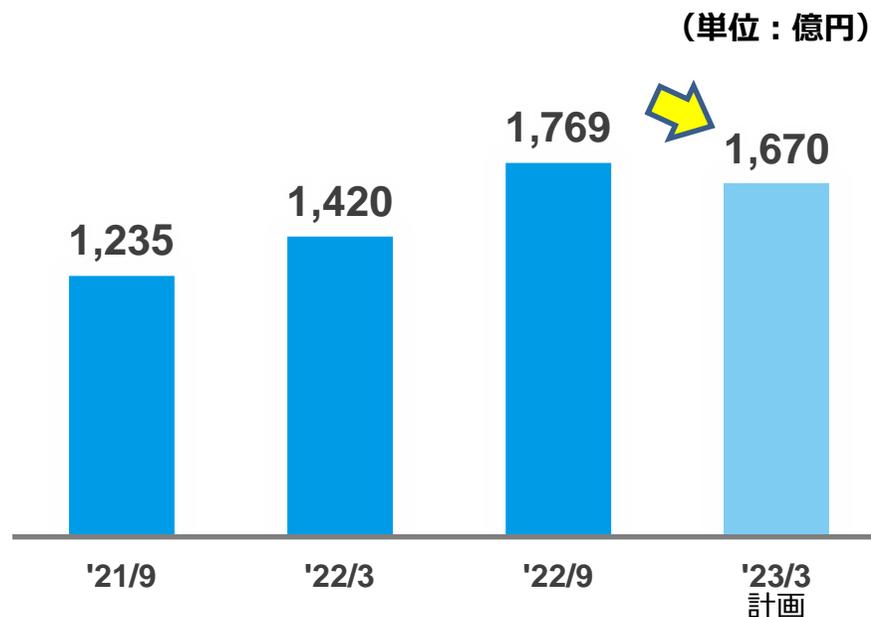
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

		2022/3 2Q	2023/3 2Q	増減
	営業キャッシュ・フロー	284	78	△206
	投資キャッシュ・フロー	△213	△172	+41
フリーキャッシュフロー		71	△94	△166
財務キャッシュ・フロー		△75	12	+87
その他		5	59	+54
現金及び現金同等物の増減額		1	△24	△25
現金及び現金同等物の四半期末残高		909	856	△53

- 積極的な設備投資に加え、原燃料価格上昇や為替の影響、計画的な在庫積み増しなどにより棚卸資産が増加。フリーキャッシュフローは△94億円となり、対前年同期で166億円減少

棚卸資産の状況



23年3月末 棚卸資産残高

約**100**億円の削減を計画

(対 22年9月末)

- 22年3月末から22年9月末にかけて棚卸資産残高は349億円増加
その内、約220億円が原燃料価格上昇および為替影響による価格影響
数量影響は、主に第3四半期のダイセル大竹工場定期修繕に向けた在庫積み増しや、ポリプラスチックの中国拠点移転計画に伴う在庫積み増しによる数量増
- 全社を挙げて棚卸資産削減に取り組む。拠点移転計画に伴う在庫積み増しの必要数量の見直しや、マーケット動向に即した適正在庫の見直しなどを実施し、23年3月末には約100億円を圧縮（対22年9月末）。その後も継続的な棚卸資産削減に取り組む

2023年3月期 業績予想

(単位：億円)

	2022/3 実績	2023/3 前回予想	2023/3 見直予想	対前年度		対前回予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	4,679	5,400	5,790	+1,111	+23.7%	+390	+7.2%
営業利益	507	465	540	+33	+6.5%	+75	+16.1%
経常利益	573	485	590	+17	+3.0%	+105	+21.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	313	370	410	+97	+31.2%	+40	+10.8%
為替レート USD/JPY	112	115	137				
ROIC	6.2%	5.3%	5.4%				
ROE	12.3%	13.0%	14.2%				
ROA	4.7%	5.2%	5.6%				
EBITDA	789	766	860				
EPS (円)	104.14	125.12	138.44				

〈対前年度〉

酢酸市況低下の影響があるものの、セイフティやエンジニアリングプラスチック、マテリアルを中心に拡販に取り組むことや原燃料・物流コスト上昇に伴う販売価格の是正、徹底したコストダウン、為替の影響などにより増収増益となる見通し

2023年3月期 業績予想 EBITDA増減分析（対 前回予想）

（単位：億円）



- 中国ロックダウンや半導体不足などによる自動車減産、電子デバイスの需要低下の影響により、スマート、セイフティ、エンジニアリングプラスチックなどの販売数量は前回予想を下回るも、マテリアルでの販売数量増加などにより、数量影響のマイナス幅は上期（△88）より縮小
- 販売価格是正に積極的に取り組み、価格影響はプラスを維持
- 為替レート（USD/JPY）前提 予想：115円 ⇒ 通期予想：137円
- 徹底したコストダウンに取り組むも、経費差他はマイナスを見込む

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

売上高	2022/3 実績	2023/3 前回予想	2023/3 見直予想	対前年度		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	195	240	240	+45	+23.1%	-	-
スマート	325	390	370	+45	+13.9%	△ 20	△5.1%
セイフティ	695	860	930	+235	+33.9%	+70	+8.1%
マテリアル	1,228	1,350	1,570	+342	+27.8%	+220	+16.3%
エンジニアリング プラスチック	2,123	2,470	2,590	+467	+22.0%	+120	+4.9%
その他事業	114	90	90	△ 24	△21.1%	-	-
合計	4,679	5,400	5,790	+1,111	+23.7%	+390	+7.2%

営業利益	2022/3 実績	2023/3 前回予想	2023/3 見直予想	対前年度		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	24	25	23	△ 1	△5.7%	△ 2	△8.0%
スマート	40	41	15	△ 25	△62.8%	△ 26	△63.4%
セイフティ	26	52	57	+31	+120.7%	+5	+9.6%
マテリアル	183	92	160	△ 23	△12.7%	+68	+73.9%
エンジニアリング プラスチック	221	250	280	+59	+26.6%	+30	+12.0%
その他事業	12	5	5	△ 7	△58.1%	-	-
合計	507	465	540	+33	+6.5%	+75	+16.1%

セグメント別詳細 - メディカル・ヘルスケア -

◇ 2023年3月期業績予想

(単位：億円)

	2022/3 実績	2023/3 前回予想	2023/3 見直予想
売上高	195	240	240
営業利益	24	25	23
EBITDA	42	54	52

<対前回予想>

- 1,3-BGなどの化粧品原料は、原燃料価格上昇に伴う価格是正を実施し、コスト上昇のカバーを図るも中国でのロックダウンによる販売数量の減少の影響もあり、減益の見通し
- 主力のキラルカラムは中国を中心とする海外向けの販売が好調。インドの分析・分取サービスや米国の遺伝子関連製品の成長、為替の影響などにより、増益の見通し

◇ 成長のためのアクション

- 1,3-BG網干工場新プラントが22年8月に商業運転開始。国内市場における無臭グレードのシェア拡大と併せて海外市場のさらなる拡販に取り組む
- BELLOCEA（真球状酢酸セルロース）の新規グレードとして欧州規制（OECD 301F認証取得）対応グレードを開発中。マーケティングを強化し、化粧品業界のマイクロプラスチックビーズ問題にソリューションを提供
- 健康食品事業は、パートナーとの共同研究や共同プロモーションなどの協業を通じて、新規商材開発によるラインナップ強化や既存素材の拡販に取り組む
- キラル関連製品の旺盛な需要に対応しながら、遺伝子解析関連事業の拡大、アクトランザ・ラボの拡販に向けたマーケティング強化など、次世代育成事業の成長戦略を加速

セグメント別詳細 - スマート -

◇ 2023年3月期業績予想

(単位：億円)

	2022/3 実績	2023/3 前回予想	2023/3 見直予想
売上高	325	390	370
営業利益	40	41	15
EBITDA	64	67	41

<対前回予想>

- 光学用酢酸セルロース（TAC）は、シェア拡大に取り組むも液晶パネル需要が前回予想前提を下回り、減益の見通し
- 電子材料向け溶剤やフォトレジスト材料は、液晶ディスプレイ用途の需要減少を半導体用途の拡販でカバーし、価格転嫁にも取り組むことで、前回予想並みの利益を見込む

◇ 成長のためのアクション

- 光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）は、世界的なコットンリンター供給不足のなかで木材パルプ原料という特徴を強みに、品質向上による競争力強化を通じて確実にシェアを拡大する
- 機能フィルムは、TV向け高性能ディスプレイ用途や需要が拡大する車載用途などへのさらなる拡販に取り組む。また、グンゼから譲受したコーティング技術などとのシナジー創出を加速させる
- 電子材料向け溶剤は増産プラントが23年4月に商業運転開始予定。さらなる拡販に取り組む。フォトレジスト材料はEUV向けなどの新規製品開発、マイクロ流体デバイスによる増産計画（25年3月期）を加速させる
- センシング事業は、ウエハレンズでVR用途の採用数を増やすとともに、既存レンズ（熱可塑）の置換需要を取込んでいく。プリンテッド材料は積層コンデンサを切り口に中国・台湾での拡販を進める。有機半導体センサは柏の葉スマートシティでの社会実証など、共創による成長戦略を加速する

セグメント別詳細 - セイフティ -

◇ 2023年3月期業績予想

(単位：億円)

	2022/3 実績	2023/3 前回予想	2023/3 見直予想
売上高	695	860	930
営業利益	26	52	57
EBITDA	84	113	128

<対前回予想>

- 上期の中国でのロックダウン、半導体不足などにより自動車生産台数は前回予想前提を下回る見通しで、インフレータ販売数量も減少を見込むも、原材料コスト上昇に伴う価格是正、コストダウンの積み増しなどにより、増益となる見通し

◇ 成長のためのアクション

- 24年3月期にインド新工場が商業運転開始予定。インフレータのさらなる拡販に取り組み、中期戦略最終年度（26年3月期）に世界シェア25%を目指す
- 一部製品の需要増に対応するため、生産地集約のスケジュールを24年3月期中の完了に変更。一方で、製造ラインの自動化による省人化は当初計画通り自動化率69%（上期実績：63%、中期最終年度目標：73%）を達成する予定。併せて、カタログ化（品種統合）やガス発生剤の製法転換を進め、確実にコスト競争力を強化する
- パートナーとの共創により電流遮断器の成長戦略を加速。市場が成長する電気自動車（EV）や再生エネルギーの蓄電送電システムの安全装置としての需要拡大に対応していく

セグメント別詳細 - マテリアル -

◇ 2023年3月期業績予想

(単位：億円)

	2022/3 実績	2023/3 前回予想	2023/3 見直予想
売上高	1,228	1,350	1,570
営業利益	183	92	160
EBITDA	285	187	255

<対前回予想>

- アセチル事業は液晶ディスプレイ用途などで一部販売数量の減少を見込むものの、アセテート・トウの需要増への対応、原燃料コスト上昇に伴う価格是正に取り組むことや為替の影響などにより増益の見通し
- ケミカル事業はカプロラクトン誘導体が注力する自動車用PPFやEV用バッテリー用途での数量増を見込むも、エポキシ化合物の液晶ディスプレイ用途の販売数量減などにより、減益となる見通し

◇ 成長のためのアクション

- アセテート・トウは、高い技術力とこれまで築き上げた信頼関係を背景とする顧客からの増販要請に確実に対応する。必要な供給能力は、新たな増設投資を行うことなく既存設備の能力を最大限活用して増強し、需要増に応じてシェアアップを図る。また、価格是正も積極的に実施
- 酢酸セルロースは、バイオマスプラ・海洋生分解性プラの特徴を持ち、国内外からの旺盛な引き合いのもと、カトラリー用途では小売大手や飲食店に採用が決定。酢酸セルロースの可能性を追求した機能性樹脂としての新規用途開発、プロセス革新による低コストパルプへの原料切り替えなどの抜本的コストダウンを推進し、ビジネスとしての礎を早期に確立する
- カプロラクトン誘導体は、自動車PPFなどの高価格・高機能市場に注力。生分解性を持つカプロラクトンモノマーのバイオマス化の開発にも着手。エポキシ化合物は、脂環式エポキシの特徴である塩素フリーの強みを生かし、EV向け絶縁材などの高付加価値製品用途へマーケティングを加速

セグメント別詳細 - エンジニアリングプラスチック -

◇ 2023年3月期業績予想

(単位：億円)

	2022/3 実績	2023/3 前回予想	2023/3 見直予想
売上高	2,123	2,470	2,590
営業利益	221	250	280
EBITDA	296	333	373

<対前回予想>

- エンジニアリングプラスチックは、日系・欧州系自動車メーカーの減産やスマートフォン市場減速などによる製品需要の低下が想定されるものの、販売数量リカバリー施策や原燃料・物流コスト上昇に伴う販売価格是正対応、為替の影響などにより、対前回予想で増益となる見直し

◇ 成長のためのアクション

- POM (+90,000トン、2025年3月期)、LCP (+5,000トン、2025年3月期) などの増産投資にオールダイセルで取り組んで計画通りに商業運転を開始し、成長する市場のニーズに確実に対応する
- その後の設備投資については、市場環境変化を見極めて判断。中期戦略見直しのなかで慎重に検討
- PSI (生産・販売・在庫) 管理の徹底により空輸費を抑制。ダイセル式生産革新を海外を含めポリプラスチックの製造拠点に導入することで、さらなるコストダウン、生産性向上に取り組む
- 新しい柱として、PEKの事業化や医療用途POMの展開、長繊維樹脂の市場開発に取り組むとともに、環境配慮型製品の開発やリサイクルビジネス (PIR：ポストインダストリーリサイクル) 事業化の検討を加速

抜本的組織改革と制度改革の推進

環境変化に対応し、中期戦略の実現に向けて、抜本的組織改革と制度改革を推進
2023年3月期には新事業創出の加速、生産基盤強化のための組織改革を実施

コーポレート組織改革

- R&D機能をリサーチセンター（R）と事業創出本部（D）に分離
- 研究開発テーマを半減
- 経営戦略本部による戦略機能強化

人事制度改革

- 役割等級制度（ロール型）を導入し、ゼネラリスト志向から本人の強みに応じた複線型人事制度へ
- 管理職に株式報酬制度を導入。やれば報われるを実感する報酬制度へ

20年3月期

21年3月期

22年3月期

23年3月期

**Accelerate
2025**

事業組織改革

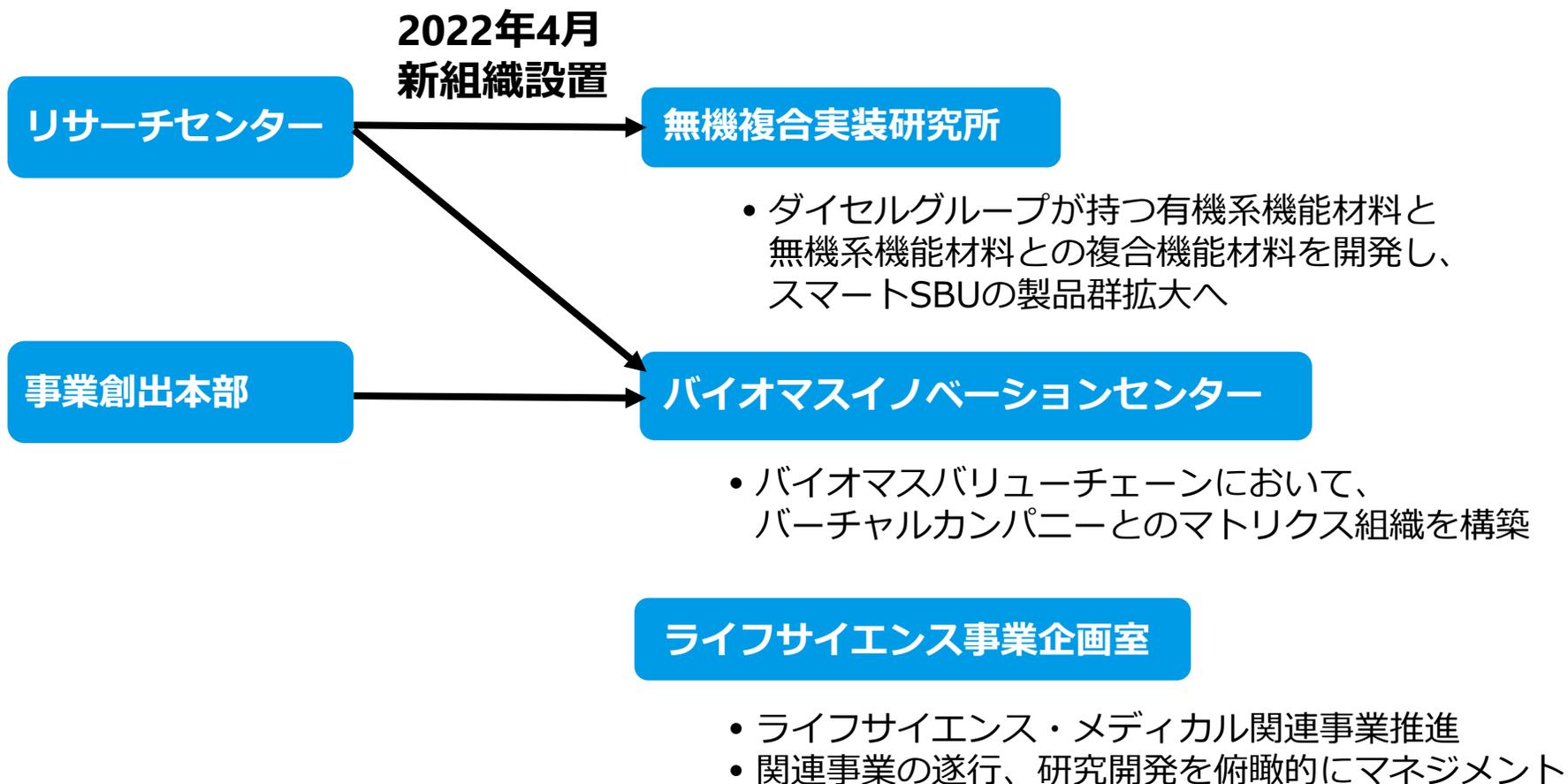
- プロダクトアウト的カンパニー制からマーケットイン型SBU制に移行

1. 新事業創出の加速
 2. 生産基盤強化
- のための組織改革

抜本的組織改革と制度改革の推進

1. 新事業創出の加速

～ さらに実を結ぶための加速段階にきた組織改革 ～



抜本的組織改革と制度改革の推進

2. 生産基盤の強化

～リスクを回避する組織強化～

投資遂行における リスク

生産技術分野のリスク想定力、設計力、建設・施工管理力、コスト管理力の低下

対策

- ① 人のミスを極力抑える取り組み
 - リスク想定力の強化を踏まえた設計力強化
- ② 人がミスをしても大事に至らない仕組みの構築
 - 労働装備率の改善、機械化・自動化の推進
 - 画期的な技術革新による仕事の仕方改革の誘発

組織強化 (リスク管理強化)

2022年4月にアセスメント本部を新設

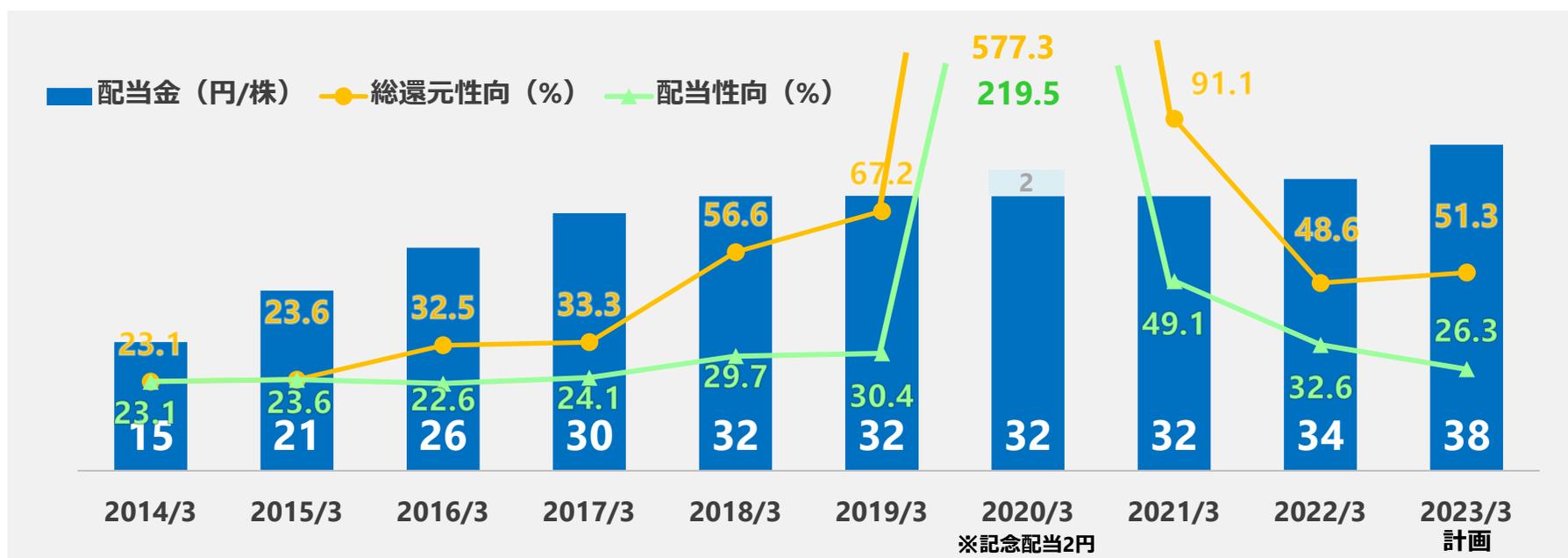
- RC（レスポンシブル・ケア）室、品質監査室をアセスメント本部の下で統合。多角的にアセスメントを実施する体制を構築
- 生産本部やSBUなど計画策定を行う部門とアセスメント本部で人財ローテーションを行い、実効ある自己点検ができる人財の育成・強化

株主還元

中期戦略：一株当たり配当金32円を下限に、総還元性向40%以上をターゲットに設定

2023年3月期

- ・ 中間配当 18円/株（予想通り）
 期末配当予想 20円/株（年間配当予想 38円/株 前回発表から2円増配）
- ・ 100億円、1,200万株の自己株式取得を決定（取得期間：2022年11月～2023年3月）



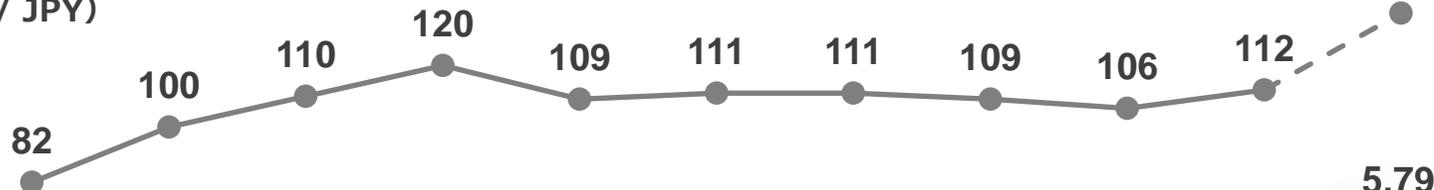
参考資料

売上高・営業利益・EPSの推移

● メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)

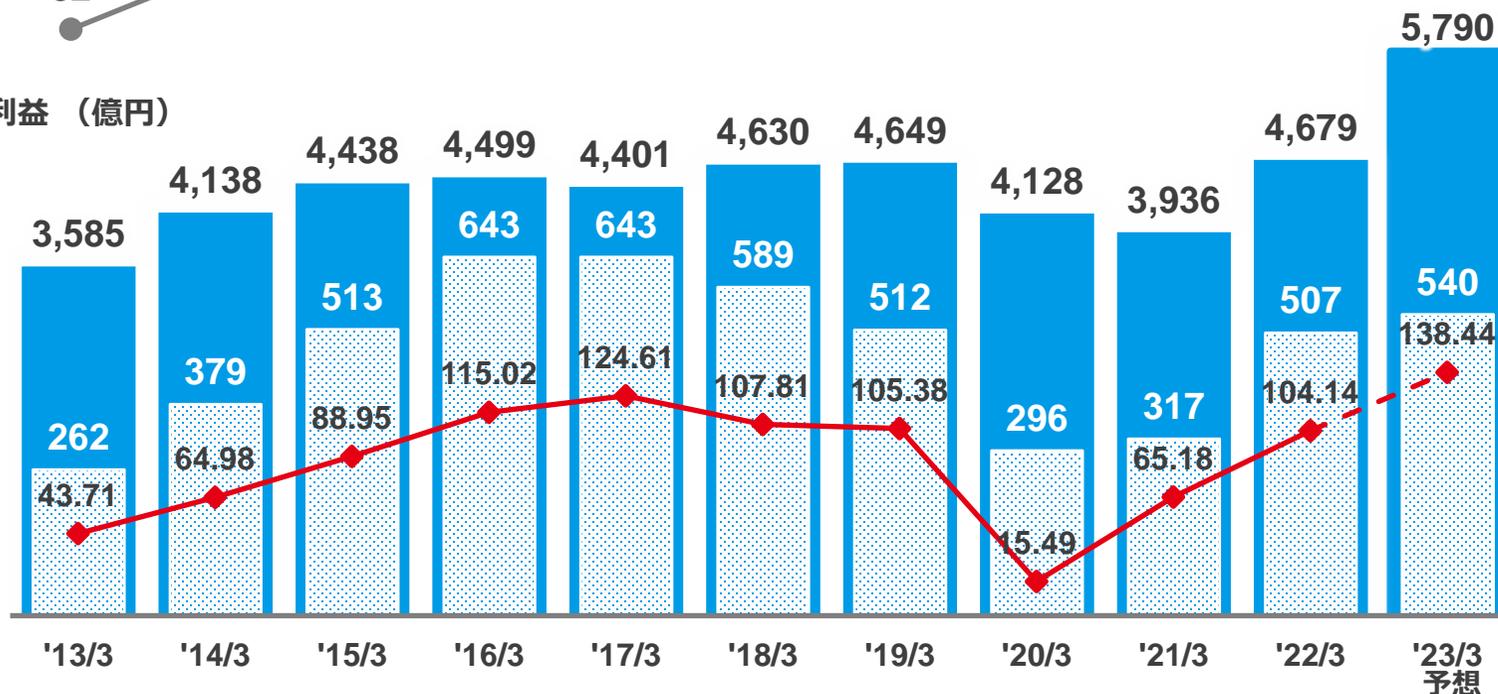


● 為替レート (USD / JPY)



■ 売上高・□ 営業利益 (億円)

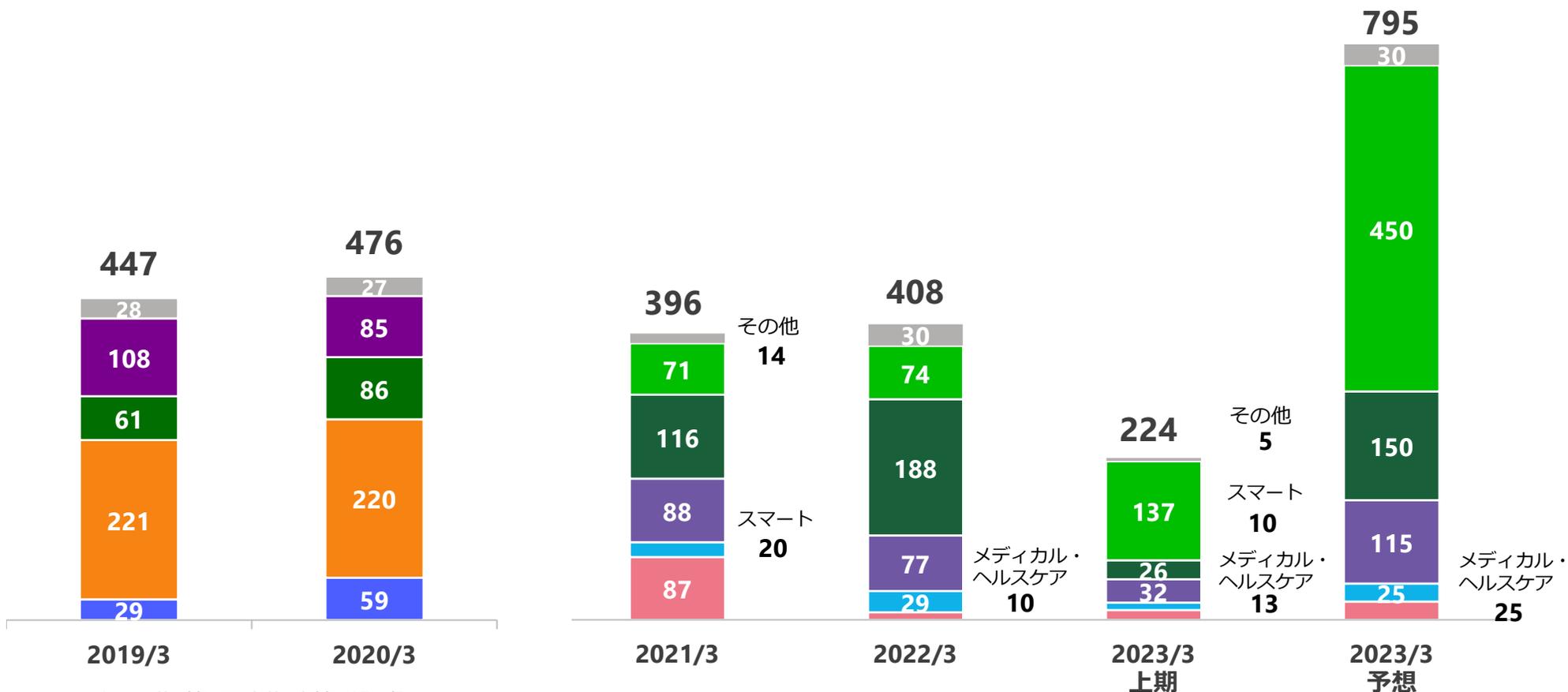
◆ EPS (円)



設備投資額

(単位：億円)

- セルロース
 - 有機合成
 - メディカル・ヘルスケア
 - スマート
 - 合成樹脂
 - 火工品
 - セイフティ
 - マテリアル
 - その他事業・全社共通
 - エンジニアリングプラスチック
 - その他事業・全社共通
- ※ 2023年3月期より、その他事業のみ



減価償却費

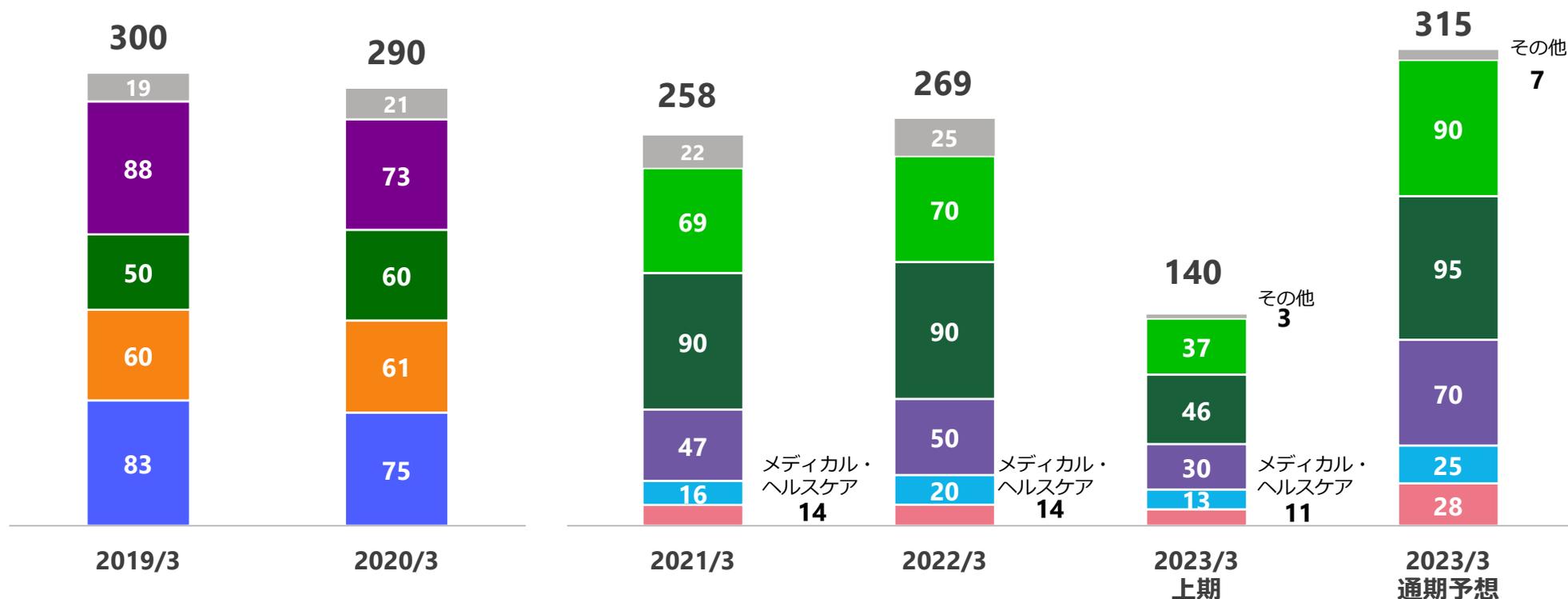
(単位：億円)

- その他事業・全社共通
- 火工品
- 合成樹脂
- 有機合成
- セルロース

- メディカル・ヘルスケア
- セイフティ
- エンジニアリングプラスチック

- スマート
- マテリアル
- その他事業・全社共通

※ 2023年3月期より、その他事業のみ



研究開発費

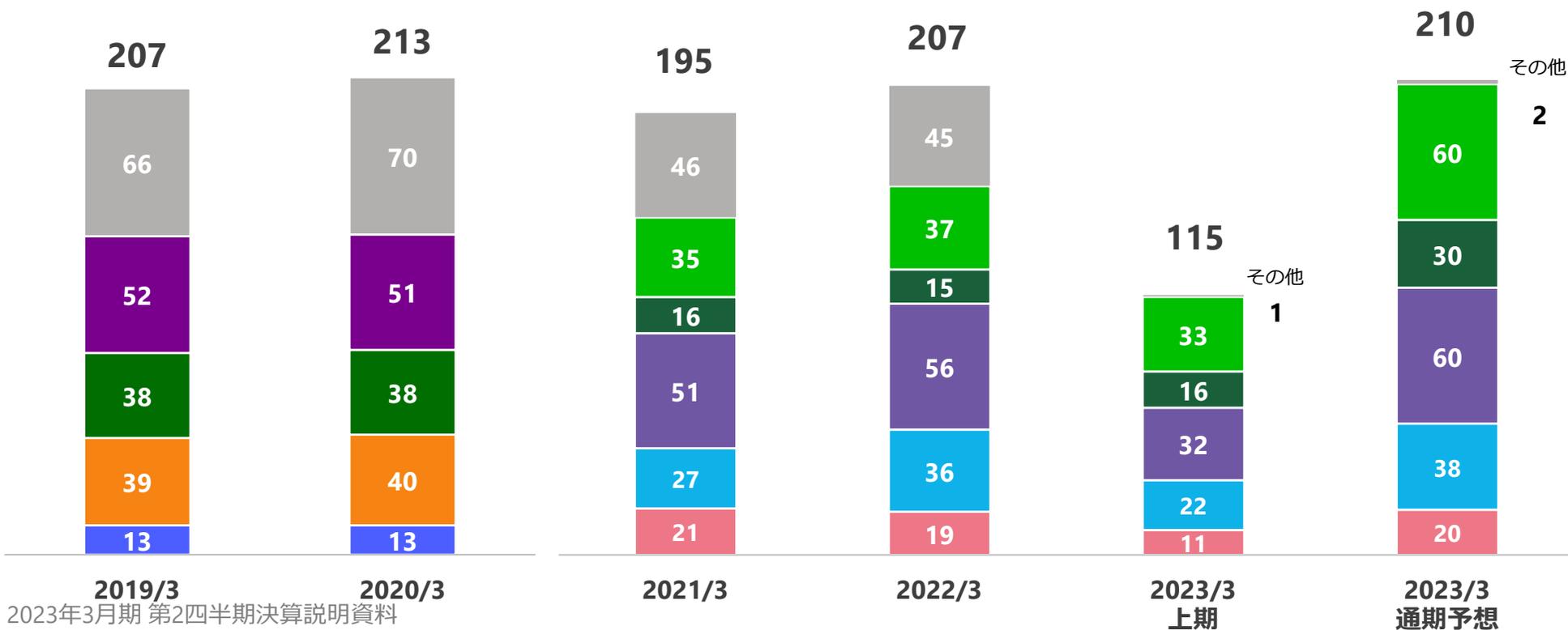
(単位：億円)

- その他事業・全社共通
- 火工品
- 合成樹脂
- 有機合成
- セルロース

- メディカル・ヘルスケア
- セイフティ
- エンジニアリングプラスチック

- スマート
- マテリアル
- その他事業・全社共通

※ 2023年3月期より、その他事業のみ



セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

（単位：億円）

売上高	2022/3				2023/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
メディカル・ヘルスケア	48	48	50	49	54	55
スマート	80	75	86	85	96	66
セイフティ	163	156	185	191	178	220
マテリアル	283	298	312	336	347	377
エンジニアリングプラスチック	515	529	524	555	587	648
その他事業	26	28	26	34	18	17
合 計	1,114	1,135	1,182	1,250	1,280	1,380

営業利益	2022/3				2023/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
メディカル・ヘルスケア	6	8	5	6	7	4
スマート	15	11	11	4	11	△ 8
セイフティ	△ 0	11	13	2	△ 4	0
マテリアル	44	42	53	44	49	55
エンジニアリングプラスチック	71	60	36	54	66	79
その他事業	4	1	3	5	1	0
合 計	139	133	120	114	130	130

2023年3月期通期業績予想

(単位：億円)

		2023/3前回予想			2023/3 見直予想			増減
		上期予想	下期予想	年間予想	上期実績	下期予想	年間予想	
	メディカル・ヘルスケア	115	125	240	109	131	240	-
	スマート	190	200	390	162	208	370	△ 20
	セイフティ	420	440	860	397	533	930	+70
	マテリアル	665	685	1,350	724	846	1,570	+220
	エンジニアリングプラスチック	1,230	1,240	2,470	1,236	1,354	2,590	+120
	その他事業	40	50	90	35	55	90	-
売上高		2,660	2,740	5,400	2,662	3,128	5,790	+390
	メディカル・ヘルスケア	15	10	25	11	12	23	△ 2
	スマート	18	23	41	4	11	15	△ 26
	セイフティ	23	29	52	△ 4	61	57	+5
	マテリアル	58	34	92	103	57	160	+68
	エンジニアリングプラスチック	113	137	250	145	135	280	+30
	その他事業	3	2	5	1	4	5	-
営業利益		230	235	465	260	280	540	+75
経常利益		240	245	485	302	288	590	+105
親会社株主に帰属する当期純利益		185	185	370	222	188	410	+40
(参考) 為替レート USD/JPY		115	115	115	134	140	137	


 為替レート・主要原燃料価格

		2022/3実績		2023/3前回計画		2023/3実績+見直計画	
		上期実績	下期実績	上期計画	下期計画	上期実績	下期計画
為替レート (USD/JPY)		110	115	115	115	134	140
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	368	427	430	430	374	400
	原油 ドバイ (USD/bbl)	70	87	100	100	102	100
	国産ナフサ (円/kl)	50,500	62,650	78,000	78,000	83,750	76,000

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

愛せる未来、
創造中。

● ● ●
DAICEL